

私は中国大好き人間で、東洋史家小川政吉先生の供をして、20年くらい前から中国を旅し、その数は既に10回を超えました。

今回は久し振りに親戚、町内の人達を誘って十数人の手作りの旅となりました。

行く先は直行便が出来た「西安」でした。

私は中国がなぜ好きかと問われたなら・・・「中国4千年の歴史文物を直接目で見られ、手に触れることが出来るから・・・。そして私たちの育った幼い頃の風景が残っているから」と答えます。

今、中国は建国以来の急成長で、GDPは100兆円を超えるといわれ、道路、建物は行く度に目を見張る大変化を遂げて驚かされます。

かつて道路は荒れ、自転車の雲霞の如き大群があふれた路は今では自動車が行き来していました。自動車の国内生産は400万台、西安市だけで毎月4万台の登録があり、道路の整備が追いつかないとガイドさんが嘆いていました。

一見豊かになったと見える中国市場経済は、実は優勝劣敗、勝者と敗者を作っています。中国経済は貧富の差がますます大きな影を落としている様な気がしました。

ポール・ケネディが「大国の興亡」の中で中国は平均して60年ごとに農民の暴動によって政権天下が代わってきたと記してあります。若し、経済政策、農業政策に失敗すれば・・・との危険をはらんでいる国だと思います。

夕暮れの中、バスを降りてレストランに向う、たった30mの間で、小学校2～3年生くらいの花売りの少年少女が私に群がってきました。

気づいたらポケットに入れていたものはきれいになくなっていました。

その夜、何気なく空港で掛けた保険の約款を読んでいたら、現金以外は保険で補償してくれることを見つけ、後日いただくことが出来ました。保険とはただ加入するだけでなく、約款を良く知っておくことも上手な旅のコツだと知りました。

中国は「一人っ子政策」です。しかしなぜか人口はインドに次いで増加しています。夫婦は完全な共働きで、給与生活者は定年後も給与(?)が支払われる老後保障の仕組みがあるとガイドさんが話していました。

世界で最大の観光資源を持つ中国は、観光産業にはかなりの投資をしている様で、観光設備、道路はその象徴でありました。

私は30年位前から古美術品や現代陶器を買い集めているので「値切る」ことに慣れていますが、中国では言い値の5分の1くらいを目安にしてよく値切り、また実際にその値段で買えました。

かつて中国人ガイドが「中国では売り人は少しでも高値でと客に言い、買う人は少しでも安く主張して折り合いが付いたところがその品の相場です。昔から市場とはそうした仕組みで成り立ってきました。今はメーカーが売値をつけて店頭へ出しますがあれば間違っています」と教えられたからであります。

以来、私は日本のデパートでも値切ります・・・。

デパートは絶対まけないというのはウソです。